

## 自己紹介中③

ずいぶんと九月号を出すのが遅くなりました。うっかり十月になりそうなどころでした。そんな人がいらつしやるかどうか分からないのですが、読者の皆様すみません。九月の前半に一週間ほどフランスへ行かせてもらっていました。こういうことを言うと、羨ましいと言われるのですが、たぶんイメージされるようなこととは程遠く、大変苦労いたしました。滞在一日目から家に帰りたくなったほどです。今回の滞在は、展覧会のため訪れたのですが、英語もフランス語も分からない中、多くの外国の方々と仕事をしなくてはならず、ただただ黙々と作業をして帰ってきました。このような言葉の通じない環境に身を置くと、僕は中学高校の英語の授業で何を教わったのだろうか、いつも反省します。反省しますが、反省は生かされず、今回も黙々として帰ってきたのです。最近になって、親が口うるさく「勉強しろ。」と言っていた理由が分かるようになってきた気がします。親も僕と同じような種類の人間だからです。しかし、それでもやはり繰り返します。僕も人には「勉強しろ。」と言って聞かせたいと思います。

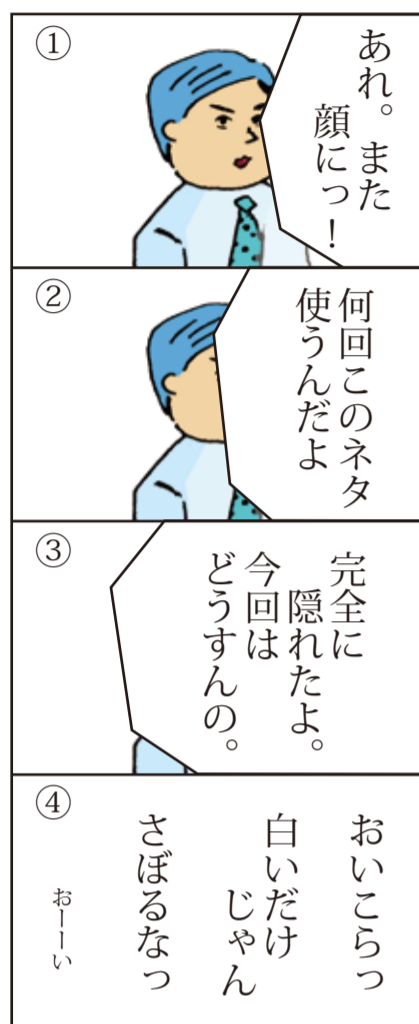
9月27日(日) 13時半より

バーベキューと  
フランスの土産話と土産(チーズ)の会  
1日だけの展示会：入場無料

10月25日(日) 13時半より

鍋とフランスの土産話と  
土産(サラミなど)の会  
1日だけの展示会：入場無料

おしらせ



日本には、建築物は必ずコンクリートで基礎を造らなくてはならないという法律があり、昔ながらの工法による伝統的な建物は新たに建てるのができなくなっている。見渡せば、ほとんど全ての建物が、伝統的な工法に比べると安価で早く施工できる新建材を使用した建物に入れ替わってしまった。いっぽう、ヨーロッパではその逆で、真新しく見える建物のほうが圧倒的に少ない。この違いはさまざまな理由で説明できるのだが、先に触れたような気象条件や素材などによる理由だけでは、この差は生まれないと僕は考えている。そう思うようになったエピソードを二つ紹介したい。

僕がイタリアのベネチアで見たアパートは、地面と垂直ではなく約六十度は傾いていたと思う。電柱のようなものをつつかえ棒のようにして、かろうじて倒れずにいた。ちょうどピサの斜塔に行くツアーを断ったところだったので、

美術教室 開講可能日

9/27(日)・10/2(金)・10/3(土)  
10/4(日)・10/9(金)・10/13(火)  
10/16(金)・10/19(月)・10/23(金)  
10/25(日)・10/30(金)

(※1週間前までにご予約頂き、時間と内容を決めます。必要な材料などの相談も致します。)

回数券利用で、  
1回(1時間半) 1750円

料金のご案内(まとめて購入頂くとお安くなります)

1回券 2000円  
4回券 7800円(1回 1950円)  
16回券 28000円(1回 1750円)

できることたくさん！以下制作例です。  
油彩画、水彩画、デッサン、版画、粘土造形、スチロール造形、プラスチック製品制作、シリコンによる雛型製作・大量生産、てん刻消しゴム判子、ライフマスク制作、図画工作、シルクスクリーン印刷(ユニフォームの制作等)、木工(机、椅子など)、七輪陶芸、オカリナ制作、名詞制作、ホームページ制作、チラシ制作、ビデオ撮影・編集・書き出し、美術史、他多数。

(ご予約・お問い合わせ)  
090-1330-1272

エッセー

## ヨーロッパと日本と 守ることについて

ヨーロッパには昔の建物がかなり残っている。残っているだけでなく、先日行ったフランスでは、古代ローマ時代から使われている円形劇場で演劇の練習をしている人達を見かけたほどだ。ヨーロッパは石の文化だから保存がしやすいと言われている。確かに日本の昔の建物は木造のため、白蟻にやられたり、燃えたりする。それから広島などでは、原爆でほとんど吹き飛んでいるから残っていないんだ、と言われることもある。広島に限らず、小倉など集中的な爆撃を受けた地域はやはり残すことが難しかったかもしれない。また、日本は地震が多く、台風も来るので、災害による倒壊もある。戦争や災害、素材の劣化などによる保存の難しさは確かにあるようだ。

わざわざ見に行かなくても傾いた建物があるんだなと思った。それはいつ倒れてもおかしくないように見え、日本なら近隣住民から苦情が出そうな建て構えだったが、昔からある建物を大切に残そうと考える人が多いと聞き、こんな状態でも残すのかっ！と驚いたものだ。ちなみにベネチアは埋立地が多く、石を素材にすると地盤沈下するので、木造の骨組みの上石で飾り外壁材としている。街のあちこちで軽い地盤沈下を起こして、石畳もくねくねと斜めになっていた。

僕の祖母が住んでいた家は、増改築を何度かして、一番古い部分はどのくらい古いのか誰も知らなかった。まだまだ使える建物に思えたが、増築した部分をシロアリが食っているということ、全てを壊し新しくする計画が家族の中で出た。僕は反対をしたが、結局は建て替えることになってしまった。元の家を壊す際、増築した部分以外は全く倒壊の恐れがなかったことを知った。

ここ最近の安保法制の件についてもそうだが、何が起こるか分からない未来に対しての保険は、文化を根絶やしにする可能性はある。日本でこれだけ新しい建物が多いのも、先祖や歴史に対しての畏敬の念が薄いからではないのか。また、この度の安保法制に関しても、過去の歴史から反省するような歴史観を持ってない教育を受けた大多数が占めるからではないか。

(文・美術作家 寺江圭一朗)